

平成30年度第1回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成30年8月22日（水） 午前10時30分～12時00分
開催場所	滝川市役所3階 301会議室
出席状況	【委員】 出席：四十九院委員、矢口委員、廣瀬委員、大崎委員、高橋委員、石川委員 貝之瀬委員、浜田委員 【事務局】 市民生活部くらし支援課 小畑課長、澤田課長補佐、大橋係長、山本主任主事
議事内容	1 開会 2 平成29年度年次報告書の作成及び公表について 報告書の素案（資料1）について、項目ごとに事務局から説明を行った。 各委員からの意見などは次のとおり。 【生活環境（身近な問題）】 委 員）：ごみの削減に向けて市民向けには様々な取り組みを行っているが、事業者には何か取り組みを行っているか。 事務局）：「エコライフたきかわ（エコたき）」全般への取組の中で「ごみの削減」への取組依頼も行っている。 委 員）：事業者が簡易包装やプラスチックの使用削減を進めることで、市民の意識改革やリサイクル向上にもつながる。1社1社に当たるのは大変なので、事業者が集まる会議などで情報を共有してもらってはどうか。 事務局）：過去にはレジ袋の削減を市内のスーパーと連携して行ったこともあったが、事業者と連携した取り組みは近年行っていないので、今後検討して行きたいと思う。 委 員）：プラスチック問題の象徴としてストローの問題が大きく取り上げられている。ストローは安価で手に入りやすいため教育機関でも多く使用されているが、環境のことを考えると市が率先して紙ストローの使用推奨などをして市民の意識を変えて行く必要があると思う。 事務局）：他の委員さんからの意見にもあるように、プラスチックは日常生活にかなり根付いているので、すぐに減らすことは難しいかもしれないが、頂いた意見を参考に対策を検討して行きたいと思う。 委 員）：滝川市は生ごみからメタンガスを作りエネルギーにしているが、自分が住んでいる地域では市が補助金を交付してコンポストの普及・促進を行っている。生ごみを減らすことを考えるとそんな方法もあると思う。 事務局）：コンポストは一軒家で庭がある人はいいが、マンションだと臭いや設置スペースなどの問題がある。平成16年のゴミ分別変更時に調査した結果、滝川市はコンポストではなくバイオ発電を行うことにした。ちなみに、残渣は肥料に加工するなど、再利用に努めている。 委 員）：九州の方でコンポストを中心にコミュニティをつくるプロジェクトが行っ

ている町がある。共同のコンポストを設置し、周りの住人が皆でそのコンポストを利用しているといった事例がある。

また、広報にこれだけごみの焼却にお金がかかっているというのを具体的な金額と一緒に掲載するのも、市民がごみを減らすための意識付けには効果的だと思う。

事務局)：コンポストについては、場所の確保や匂いのことを考えると取り組むのは難しい。広報などを活用した取組については、今後検討して行きたい。

【地球環境（地球全体の問題）】

委 員)：公共施設のエネルギー消費量については、公共施設を利用している市民への協力依頼や周知をどのように行っているのか。

事務局)：ウォームビズやクールビズの呼び掛けはエレベーターホールや窓口にポスターなどを貼り周知している。

委 員)：施設のエコ診断を行う専門家を呼んで施設の中を見てもらう方法もある。

事務局)：公共施設については、職員や利用者の健康などを考慮し、エアコンや暖房の温度調整などが必要になってくる。今のところ劇的に消費エネルギーを抑える方法はないが、引き続き、こまめにムダなエネルギーの消費を抑えるように各施設に呼びかけて行く。

委 員)：施設の照明を全てLEDに変えてはどうか。

事務局)：LEDを利用可能にするためには、機材の取り換えが必要。現在も限られた予算の中で、少しずつではあるがLEDへの変更を進めている。

委 員)：今まで順調に前年度比1%減を行ってきたので、今後も1%削減を続けていくことはなかなか厳しくなっている。皆で知恵を絞っても難しいと思うがどう考えているか。

事務局)：市役所は手動で温度管理を行っており、不用事は消電するなど省エネに努めている。

委 員)：市内の街路灯のLED化はどれくらい進んでいるのか。街路灯以外に補助金はあるのか

事務局)：全体の6割程度。LEDの街路灯にしか補助金を支出していない。町内会からの要望は多いが、限られた予算の中で調整している。

委 員)：全体の6割程度がLED化されているのは、素晴らしいことだと思う。せっかくなので、報告書にも記載したらよいと思う。

事務局)：追加する。

委 員)：駅前に非常時に活用できる風力発電が設置されているのも素晴らしいと思う。風力発電を行っているのは市内でここだけか。

事務局)：市内では、ふれ愛の里でも風力発電を行っている。以前、丸加高原の奥で風力発電実験を行ったが、十分な結果が得られず断念した。

【自然環境・農業（自然・農業の保全）】

委 員）：エコネット登録団体の自然保護活動参加人数と農業体験授業実施校数は、このままの数字で考えると３７年度の目標に届かないのではないかと。

また、これから増える見込みはあるのか。

事務局）：自然保護活動参加人数については、引き続き HP など周知を行い増加させていきたい。農業体験については、市内全ての学校が行っているわけではないので今後増える見込みはある。しかし、受け入れる農家の協力が必要不可欠であり、農家の高齢化などを考えるとなかなか難しいが、引き続き、協力依頼を行い増加を目指したい。

【環境コミュニティ】

委 員）：環境学習リーダー養成講座受講者数は目標に届きそうなのか。

事務局）：今年から、國學院大學北海道短期大学の学生並びに滝川高校理数科１年生全員が環境学習リーダー養成講座に参加し、子ども達へ環境教室を行う取り組みをはじめた。短大生、高校生合せて毎年５０名程度が養成講座に参加することになるので、目標達成はできると考えている。

委 員）：環境学習リーダーの定義は何か。

事務局）：滝川市は実施する養成講座を受講し、子ども達へ環境教育を行う短大生・高校生を環境学習リーダーと呼んでいる。

委 員）：今は北海道環境財団が指導に入っているが、今後補助金などがなくなった時のことも考えて、将来指導者となる大人も養成していく必要があるのではないかと。

事務局）：北海道環境財団から、学生を環境学習リーダーに養成する取組は全国的にも珍しいので、補助金などがなくなれば環境財団の予算で指導を続けて行きたいと打診されている。

市民の指導者については、北海道環境財団に準じた知識や指導力を確保できるのか、ボランティアでの活動となるので継続性を確保できるのかなどの問題もあることから、今後どのように進めて行くか、慎重に検討して行きたい。

４ 二酸化炭素排出抑制対策事業の進捗状況について（資料３）

（１） 二酸化炭素排出抑制対策補助金で行う事業内容について

５ 閉会